

「九州新幹線・筑後船小屋駅についてのアンケート」の主な結果概要

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科

2016年度社会調査実習「九州新幹線」調査グループ

担当教員 田代英美

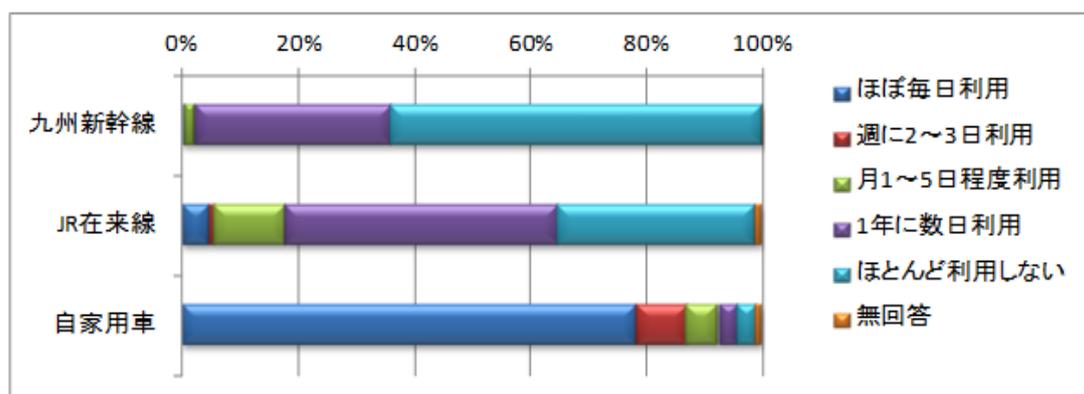
学生調査グループ一同

【回答者のプロフィール】

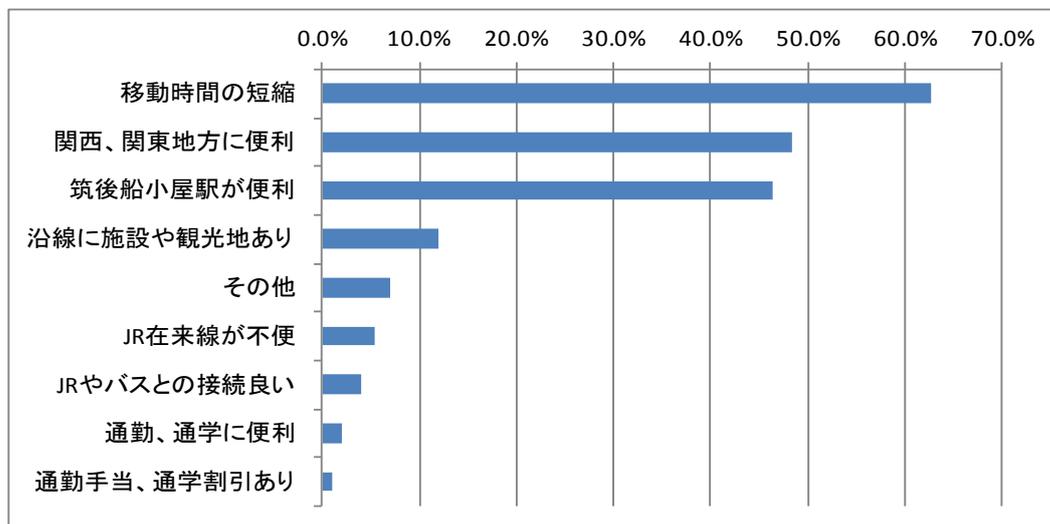
- ・筑後市にお住いの18歳～79歳の方の中から無作為で（くじ引きのような方法で）1500人の方を選び、アンケートを郵送させていただきました。回答を返送して下さった方は562人でした（有効回収率38%）。
- ・うち男性は47%、女性は53%でした。
- ・年代別では、18歳～30歳代23%、40歳代・50歳代32%、60歳代・70歳代45%で、60歳以上の比率が約半数と高くなっています。

【九州新幹線、JR在来線、自家用車の利用について】

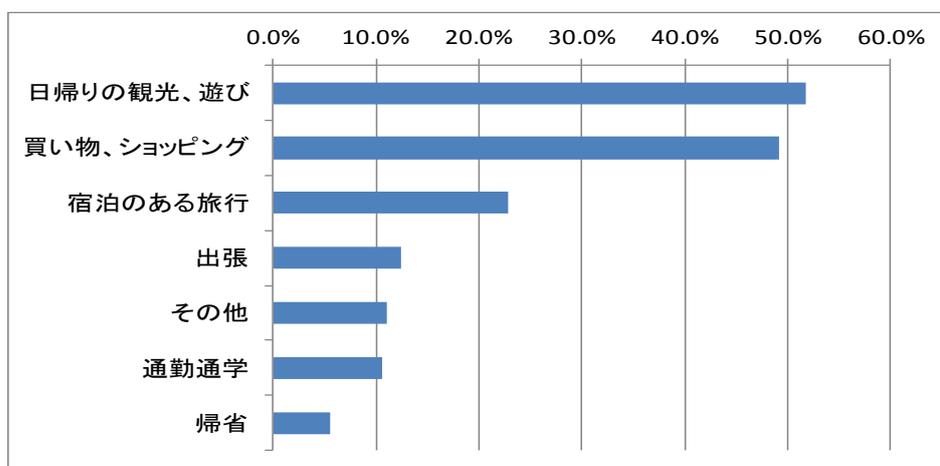
- ・自家用車は、「ほぼ毎日利用する」が78%、一月に1日以上利用する人は合わせて92%です。一方、九州新幹線は「ほとんど利用しない」が64%、「1年に数日程度利用する」が34%です。また、JR在来線は「ほとんど利用しない」が34%、「1年に数日程度利用」が47%でした。



- 九州新幹線を利用する人に利用する理由を尋ねると（9項目の中から当てはまるものを幾つでも選択）、「移動時間が短縮できるから」「関西、関東方面に行くのにも便利だから」「筑後船小屋駅が便利だから」の3項目の比率が高くなっています。



JR 在来線利用者の利用目的では（7項目から当てはまるものを幾つでも選択）、「日帰りの観光、遊び」、「買い物、ショッピング」の比率が高くなっています。



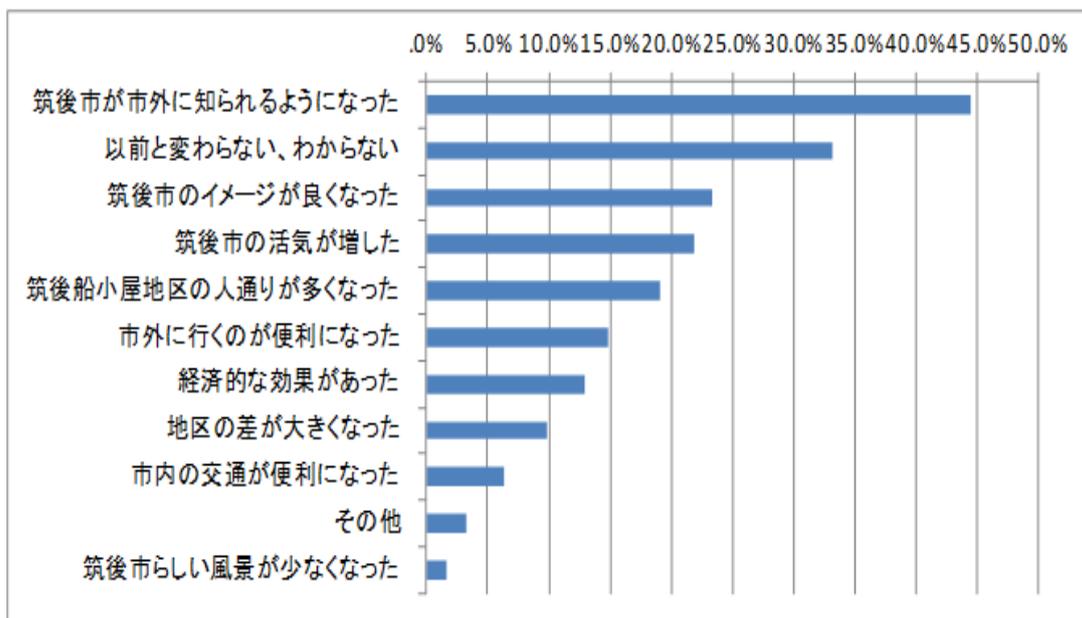
- 以上のデータから、筑後市での日常的な交通手段は自家用車であると言えます。

九州新幹線は、利用しない人が2/3で、利用する人もほとんどが1年に数日程度です。関西・関東方面に行く場合など長距離に移動する際に利用される交通機関であることがわかります。筑後船小屋駅ができたことも、利用する人にとっては便利になった要因になっています。

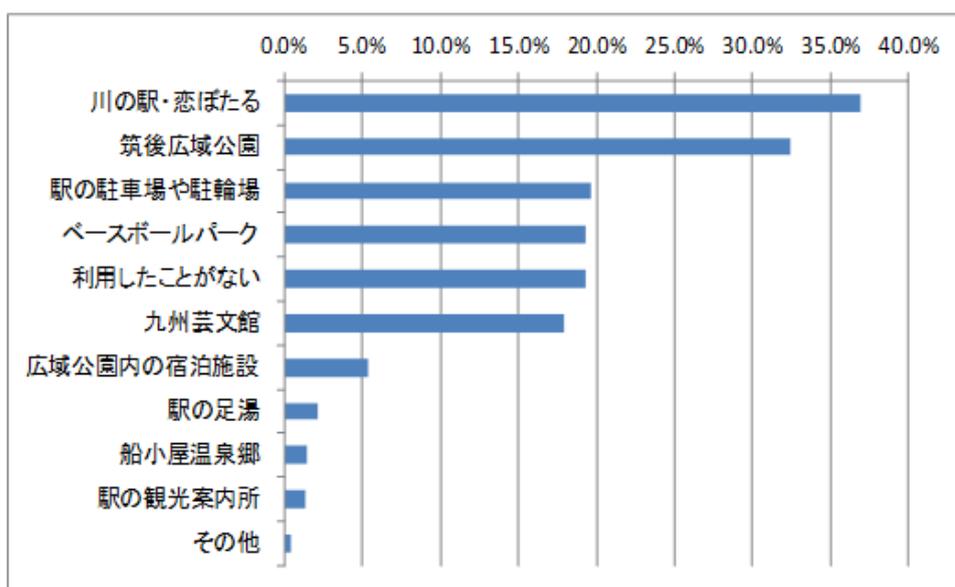
JR 在来線の利用者は九州新幹線より多く約半数ですが、利用頻度は1年に数日程度が大半です。JR 在来線も日常的な利用ではなく、日帰りの観光・遊び、買い物やショッピングなど中距離移動の際の交通手段となっています。JR 在来線の乗車駅は8割が羽犬塚駅です。

【九州新幹線開業後の筑後市の様子】

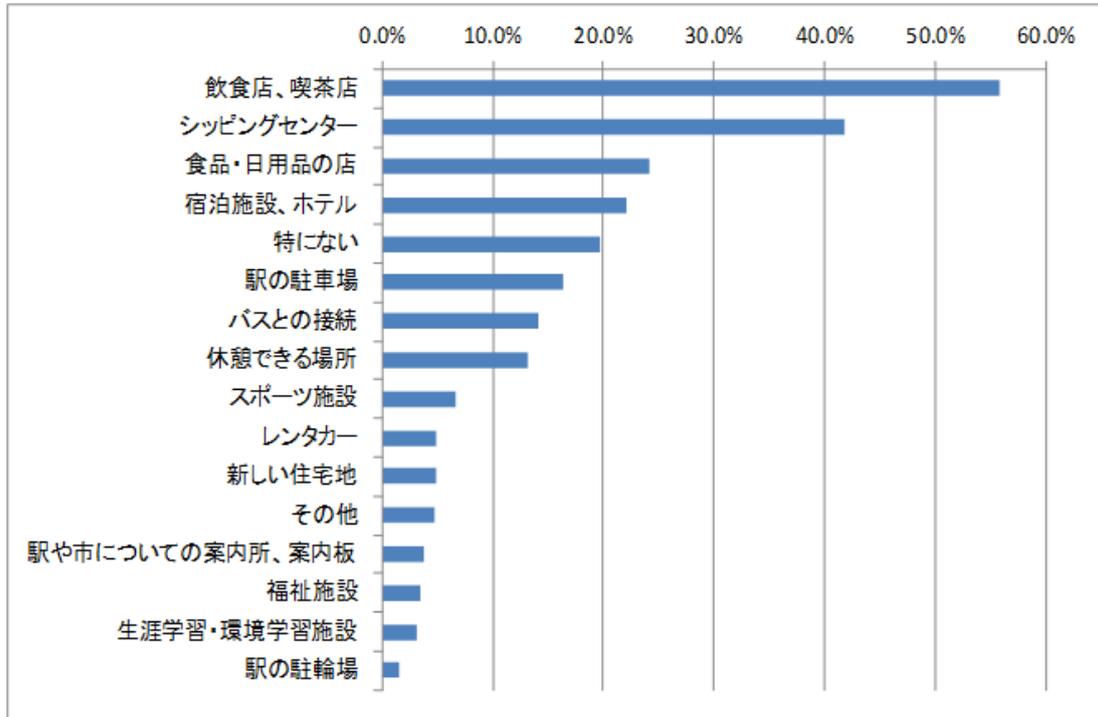
- 九州新幹線開業後の筑後市については（11項目から幾つでも選択）、「筑後市が市外に知られるようになった」や「以前と変わらない、わからない」の比率が高く、次いで「筑後市のイメージが良くなった」「筑後市の活気が増した」「筑後船小屋地区の人通りが多くなった」などが多く挙げられています。九州新幹線の開業による変化はないと感じる人も少なくないことと、変化の面では筑後市の知名度やイメージがアップしたと感じる人が多いことがわかります。



- 筑後船小屋駅は公園の中の駅として、周辺ではスポーツ・文化施設の新設や整備が進められています。周辺の施設のうち、この1年間で利用した人の比率が高いのは「川の駅・恋ぼたる」「筑後広域公園」です。どれも利用したことがない人は約2割でした。

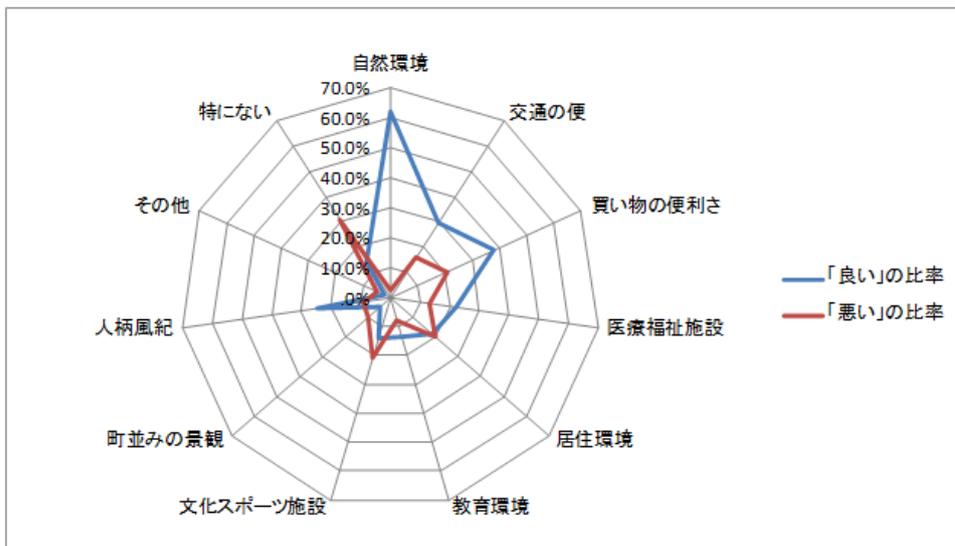


- ・筑後船小屋駅周辺で足りないものとしては（16項目から幾つでも選択）、「飲食店、喫茶店」「ショッピングセンター」の比率が高くなっています。筑後船小屋駅周辺の施設を利用する際などにも立ち寄ってゆっくり過ごせる場の要望が高いと言えます。

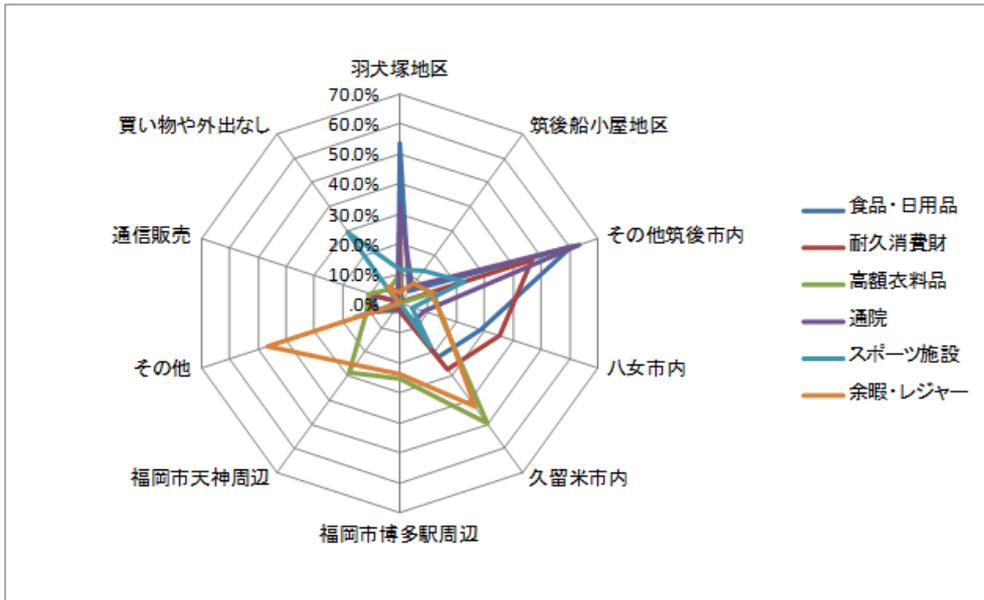


【筑後市全体の生活環境、住みやすさについて】

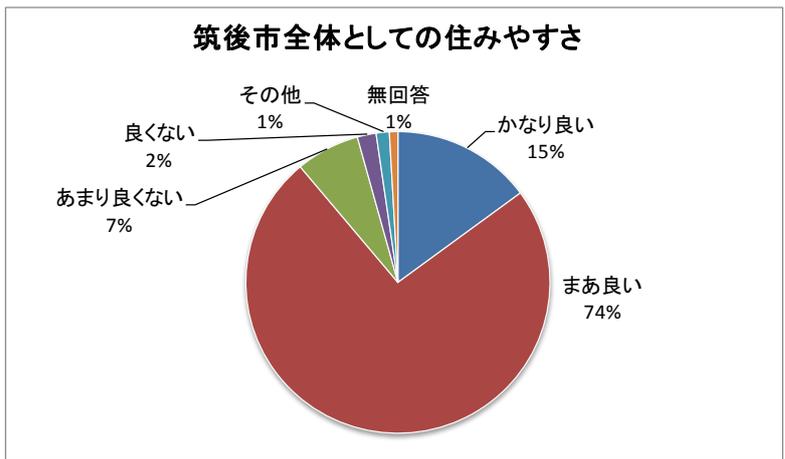
- ・今回のアンケートでは、交通機関の利用とともに筑後市全体の環境についても伺いました。「良い」の比率が高いのは「自然環境」「買い物の便利さ」「交通の便」です。「悪い」ものは「特にない」が3割でしたが、他方、「買い物の便利さ」「文化・スポーツ施設」「道路・上下水道・公園などの居住環境」では「悪い」が2割とやや高くなっています。居住環境や文化・スポーツ施設についてはさらなる充実が求められているようです。

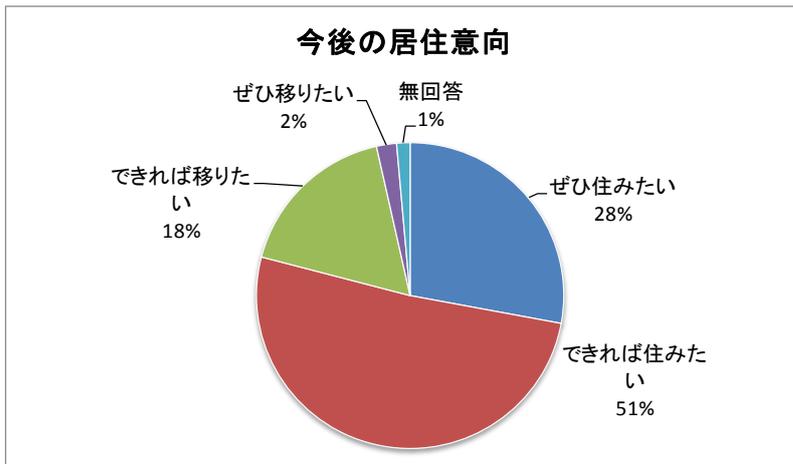


- ・買い物や通院、レジャーなどの際に出かける地域についても伺いました。食品・日用品や通院等は筑後市内で、家具・家電など耐久消費財の買い物やスポーツ施設の利用は筑後市内だけでなく八女市や久留米市へ、余暇・レジャーは久留米市や福岡市やその他の地域へという傾向が見られます。生活上の行動圏が周辺の市や福岡市に広がっていることがわかります。

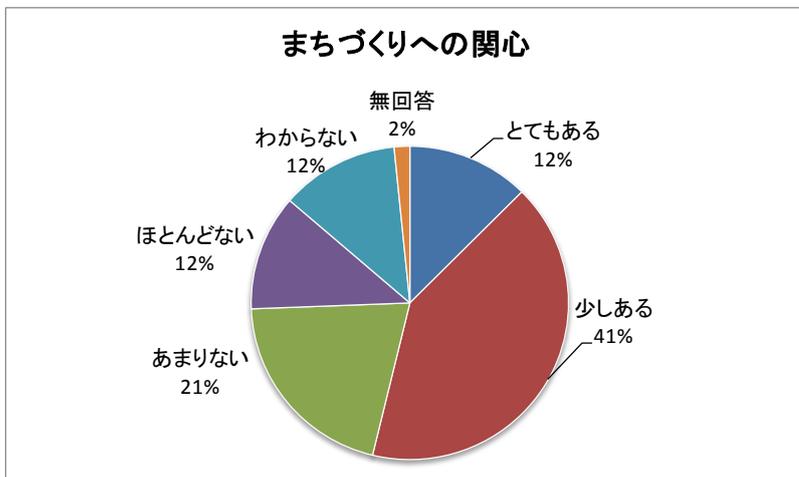


- ・現在の筑後市全体としての住みごこち（住みやすさ）は「良い」が 9 割で、かなり高い評価です。また、今後も「住みたい」が 8 割でした。筑後市は全体として住みやすく、居留意向も高いことがわかります。

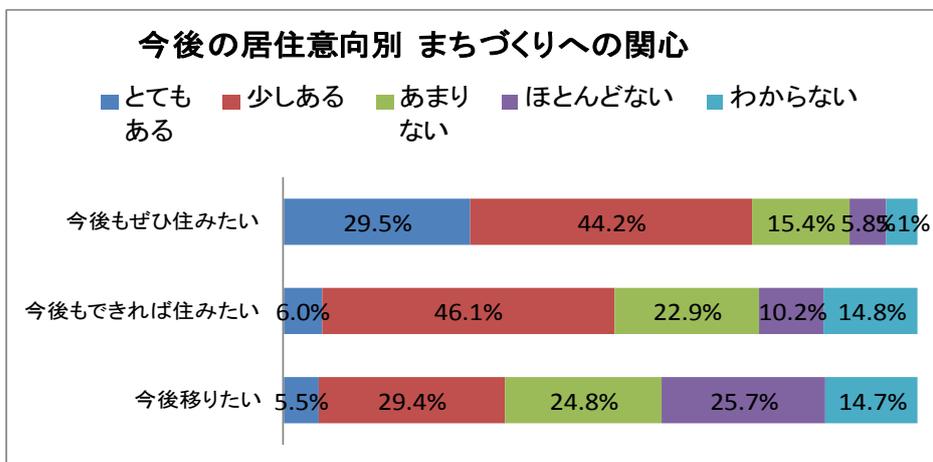


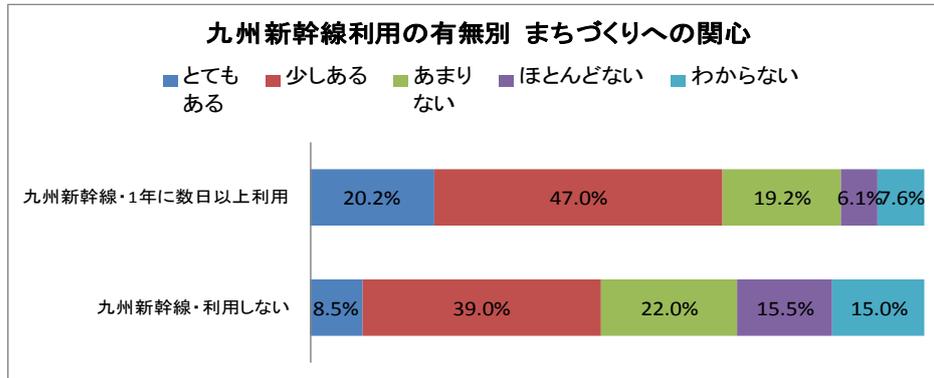


・筑後市のまちづくりに対しては「関心がある」約5割、「関心がない」約3割でした。



・まちづくりへの関心と他の項目との関連では、年齢による差異はなく（どの年代も同じような割合で関心を持っている）、市全体の住みやすさの評価や今後の居留意向との関連では好評価をしている人ほどまちづくりへの関心が高くなっています。また、九州新幹線を利用する人の方がまちづくりへの関心がやや高い傾向が見られました。





【まとめ】

今回のアンケートで、筑後市は全体として住みやすさへの評価が高く、まちづくりに対しては約半数の方が関心を持っていることがわかりました。生活環境の面では道路・上下水道・公園等の居住環境や文化・スポーツ施設の充実が望まれていると言えます。

2011年3月に全線開業した九州新幹線は、利用している人は36%で、利用頻度は1年に数回程度がほとんどでした。九州新幹線は長距離移動の際に利用されており、日常的な交通手段としては自家用車が利用されています。

筑後船小屋駅周辺の施設では「川の駅・恋ぼたる」や「筑後広域公園」など比較的使用が多いものもありますが、それほど利用が進んでいない施設も見られます。また、飲食店・喫茶店やショッピングセンターなど、文化・スポーツ施設とは別に、ゆっくり過ごせる場所への要望が高くなっています。

九州新幹線開業後の筑後市の様子について、以前と変わらないと思う人は1/3、何らかの変化を挙げた人が2/3でした。変化の内容では、筑後市の知名度やイメージ、活気のアップが比較的高い比率となっています。

筑後市では九州新幹線開業を機に、文化やスポーツを楽しむ環境の整備が進められてきました。市の知名度・イメージアップや新施設の利用などは効果として挙げるができます。ただ、いずれもそれほど大きな比率ではなく、現状では効果は部分的であると思われま。整備の効果を市全体に広げていくことが今後の課題だと考えられます。